

# キヤノン株式会社

## 2023年12月期 決算説明会

2024年1月30日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

---

■ 2023年実績	P 2~5
■ 2024年見通し	P 6~9
■ 財務状況	P 10~12
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 13
■ 参考資料	P 14~19

---

- 世界経済減速により当社関連市場でも購入時期先延ばしや在庫削減の動きが強まる
- 景気減速の中でも、新規事業（メディカル・ネットワークカメラ、商業印刷）と半導体露光装置は堅調に成長
- 競合各社の供給不足が解消し、プリンターの価格競争が激化
- オフィス複合機やカメラの需要は底堅く推移
- 部品・物流の逼迫が解消し、コストダウンが進展
- 円安効果が加わり、3年連続の増収増益、売上高は2007年に次ぐ水準

2

2023年の世界経済は、コロナ禍から社会は正常化し、部品不足や物流逼迫の解消が進んだ一方で、各国におけるインフレ抑制のための金利高止まりや、不動産市況の悪化による中国経済の急激な減速、地政学リスクの高まりにより、需要の弱含みが続きました。

当社関連市場においても景気減速の影響を受け、購入時期を先延ばしする顧客の動きや在庫を絞るディーラーの動きが強まりました。また各社の製品供給不足が解消されたことで、レーザープリンターやインクジェットプリンターにおいて競合との価格競争が激化しました。

しかしながら、新規事業であるメディカル、ネットワークカメラ、商業印刷と半導体露光装置については投資先送りの傾向はあるものの、高い成長性を背景に前年から売上を伸ばし、オフィス複合機とカメラの需要は底堅く推移しました。

これまで上昇を続けていた部品や物流価格も落ち着きを見せ下期からはコストダウンが進んだことに加え、約8割の高い海外売上比率により円安の恩恵を受けました。

その結果、売上高は過去最高の2007年に次ぐ水準となり、3期連続の増収増益を達成しました。

# 2023年4Q/年間 全社PL

(億円)	4Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前回見直し	対前回
売上高	11,637	11,572	+0.6%	41,810	40,314	+3.7%	42,200	-390
売上総利益 (売上総利益率)	5,481 47.1%	5,183 44.8%	+5.7%	19,689 47.1%	18,278 45.3%	+7.7%	19,980 47.3%	-291
経費 (経費率)	4,321 37.1%	4,210 36.4%		15,935 38.1%	14,744 36.5%		15,980 37.8%	+45
営業利益 (営業利益率)	1,160 10.0%	973 8.4%	+19.2%	3,754 9.0%	3,534 8.8%	+6.2%	4,000 9.5%	-246
税引前利益	1,148	1,205	-4.7%	3,908	3,524	+10.9%	4,250	-342
純利益 (純利益率)	806 6.9%	848 7.3%	-5.0%	2,645 6.3%	2,440 6.1%	+8.4%	2,920 6.9%	-275
USD	147.93	141.46		140.85	131.66		140.11	
EUR	159.16	144.34		152.20	138.42		151.13	

3

商戦期である第4四半期は、1兆1,637億円の売上をあげ、営業利益が前年から19.2%増加し、対売上高比率が10.0%となりました。

年間では、売上高は対前年3.7%増の4兆1,810億円、営業利益は6.2%増の3,754億円、純利益は8.4%増の2,645億円となりました。

# 2023年 ビジネスユニット別PL

(億円)		4Q			年間				
		2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	6,426	6,402	+0.4%	23,461	22,726	+3.2%	23,428	+33
	営業利益 (%)	724 (11.3%)	519 (8.1%)	+39.5%	2,283 (9.7%)	2,124 (9.3%)	+7.5%	2,414 (10.3%)	-131
メディカル	売上高	1,642	1,508	+8.9%	5,538	5,133	+7.9%	5,618	-80
	営業利益 (%)	137 (8.4%)	100 (6.6%)	+37.8%	316 (5.7%)	310 (6.0%)	+2.1%	368 (6.6%)	-52
イメージング	売上高	2,293	2,424	-5.4%	8,616	8,035	+7.2%	9,010	-394
	営業利益 (%)	337 (14.7%)	443 (18.3%)	-23.9%	1,456 (16.9%)	1,266 (15.8%)	+15.0%	1,562 (17.3%)	-106
インダストリアル	売上高	990	955	+3.7%	3,147	3,292	-4.4%	3,152	-5
	営業利益 (%)	233 (23.6%)	134 (14.0%)	+74.5%	586 (18.6%)	580 (17.6%)	+1.0%	594 (18.8%)	-8
その他及び全社	売上高	484	552	-12.3%	1,898	2,123	-10.6%	1,943	-45
	営業利益	-263	-208	-	-863	-738	-	-925	+62
消去	売上高	-198	-269	-	-850	-995	-	-951	+101
	営業利益	-8	-15	-	-24	-8	-	-13	-11
連結合計	売上高	11,637	11,572	+0.6%	41,810	40,314	+3.7%	42,200	-390
	営業利益 (%)	1,160 (10.0%)	973 (8.4%)	+19.2%	3,754 (9.0%)	3,534 (8.8%)	+6.2%	4,000 (9.5%)	-246

※2022年年間決算発表表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

4

プリンティングについては、市場成長が続くプロダクション事業で、カットシート機のimagePRESS Vシリーズや大判プリンターのColorado Mシリーズが販売台数を大幅に伸ばし2桁の成長率となりました。また、オフィス複合機もオフィスにおける中核のプリンティング機器として需要は底堅く、売上を伸ばしました。一方、レーザープリンターとインクジェットプリンターは在宅需要のピークアウトに加え中国や欧州での景気悪化の影響を受けて市場が縮小し売上を落としましたが、ビジネスユニット全体では増収増益となり、利益率も高まりました。

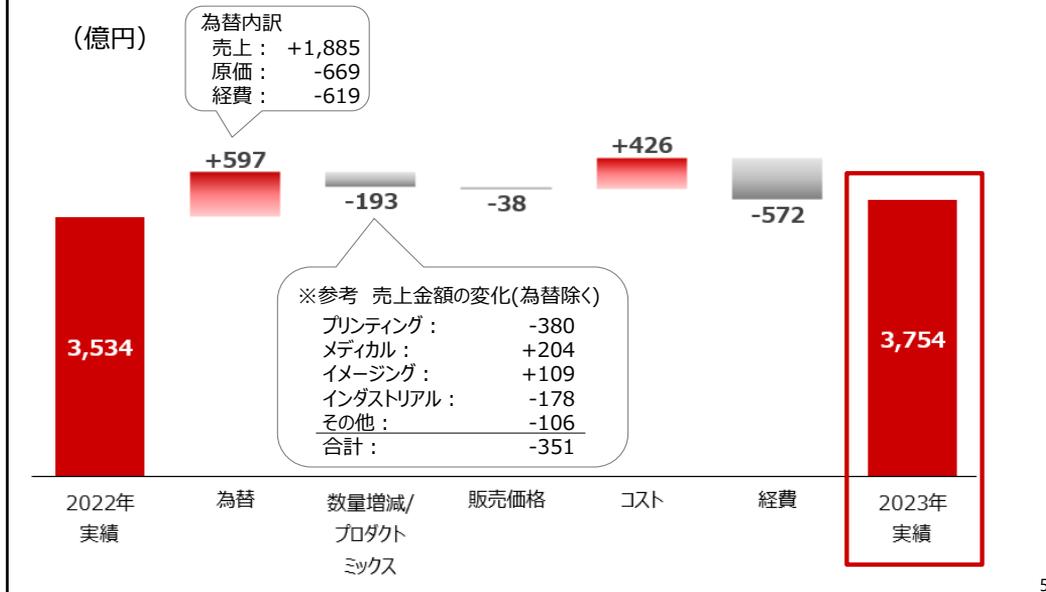
メディカルは、第4四半期に1,600億円以上を売上げ、年間でも3年連続で最高業績を更新しました。CTやMRI、血管撮影装置のディーラーリングを使い画像クオリティを高めた製品が販売を伸ばし、特にMRIについては日本市場で初めてトップシェアを獲得した模様です。

イメージングのカメラは、競合各社の製品供給量が増加し価格競争が激化する中でも、ミラーレスカメラの比率を高めながら、前年から微増の288万台を販売し、売上を伸ばしました。ネットワークカメラは景気減速によるインフラ投資の抑制が懸念されましたが安心安全を求める人々のニーズは依然強く、年間では2桁の成長が継続しました。

インダストリアルは、半導体露光装置がパワーデバイス向けを中心に販売台数を伸ばした一方で、FPD露光装置はパネルメーカーの業績低迷により投資の調整期となり販売台数を減らしたため減収となりました。利益については、プロダクトミックスの改善等により増益となり利益率も高まりました。

# 2023年 営業利益分析(年間)対前年

Canon



円安の進行により為替影響は597億円のプラスになりましたが、プリンターやFPD露光装置の販売台数減や他社の供給量回復による価格競争により数量増減/プロダクトミックスは193億円のマイナスとなりました。

コストは下期から物流費を中心に426億円下がりましたが、経費は人件費のベースアップに加え、デバイス平塚新工場や開発費などの成長投資により572億円増加しました。

- 世界経済は先行き不透明、昨年よりも低い成長にとどまる前提
- 半導体露光装置、メディカル、ネットワークカメラ、商業印刷はニーズ拡大により今年も市場成長が続く
- オフィス複合機、プリンターはシェア向上で増収を目指す
- コストダウンに加え、経費構造を全面的に見直すプロジェクトを開始
- 4期連続の増収増益と営業利益率10%を目指す
- 配当金は10円増配し、1株当たり150円を計画
- 1,000億円の自社株取得枠を設定

6

世界経済については、地政学的な緊張の高まりや各国の金融政策など政治・経済両面で先行き不透明な状況が続き、全体として昨年より低い成長にとどまると予想されております。

その様な中でも、半導体露光装置、メディカル、ネットワークカメラ、商業印刷は顧客ニーズの拡大により今年も市場成長が続く見込みであり、オフィス複合機やプリンターについてもシェア向上により売上増を図ります。

収益面では、コロナや半導体不足対策に追われていた状態から本来のコストダウン活動に注力できており、工場の固定費削減や製品設計からの原価削減の効果が表れてくる見通しです。

さらに 開発、生産、販売の経費構造を全面的に見直して経費率を最適化するプロジェクトを今後2年かけて行っていくことで、4期連続増収増益と二桁の営業利益率を目指してまいります。

なお、株主還元につきましては1株あたり配当金を前年より10円増やし、年間150円とするとともに、年間を通じて1,000億円の自社株買いの取得枠を設定することを取締役会で決議しました。

# 2024年 見通しのポイントと全社PL

(億円)	2024年 見通し	2023年 実績	対前年
<b>売上高</b>	<b>43,500</b>	<b>41,810</b>	+4.0%
<b>売上総利益</b> (売上総利益率)	<b>20,655</b> 47.5%	<b>19,689</b> 47.1%	+4.9%
<b>経費</b> (経費率)	<b>16,305</b> 37.5%	<b>15,935</b> 38.1%	
<b>営業利益</b> (営業利益率)	<b>4,350</b> 10.0%	<b>3,754</b> 9.0%	+15.9%
<b>税引前利益</b>	<b>4,500</b>	<b>3,908</b>	+15.2%
<b>純利益</b> (純利益率)	<b>3,050</b> 7.0%	<b>2,645</b> 6.3%	+15.3%
USD	140.00	140.85	
EUR	155.00	152.20	

2024年 年間の為替影響額 (1円の変動による影響)		
	売上	営業利益
USD	126億円	30億円
EUR	67億円	30億円

7

2024年は、売上高は対前年4.0%増の4兆3,500億円、営業利益は15.9%増の4,350億円、純利益は15.3%増の3,050億円とし、4期連続の増収増益を目指してまいります。

なお、前提となる為替レートは、足元の相場や金融政策の動向などを総合的に勘案し、1ドル 140円、1ユーロ 155円と想定しています。

# 2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2024年 見通し	2023年 実績	対前年
プリンティング	売上高	23,890	23,461	+1.8%
	営業利益 (%)	2,559 (10.7%)	2,283 (9.7%)	+12.1%
メディカル	売上高	5,820	5,538	+5.1%
	営業利益 (%)	460 (7.9%)	316 (5.7%)	+45.3%
イメージング	売上高	9,008	8,616	+4.5%
	営業利益 (%)	1,472 (16.3%)	1,456 (16.9%)	+1.1%
インダストリアル	売上高	3,830	3,147	+21.7%
	営業利益 (%)	723 (18.9%)	586 (18.6%)	+23.4%
その他及び全社	売上高	1,840	1,898	-3.1%
	営業利益	-864	-863	-
消去	売上高	-888	-850	-
	営業利益	0	-24	-
連結合計	売上高	43,500	41,810	+4.0%
	営業利益 (%)	4,350 (10.0%)	3,754 (9.0%)	+15.9%

8-1

プリンティングのプロダクションは、これまで印刷会社の声を取り入れて高めてきた画質や生産性が業界内に浸透してきていることに加え、4年に一度ドイツで開催される国際的な展示会も活用し、売上を拡大していきます。オフィス複合機は現製品の好調な受注に加え、製品ラインアップを強化することによりシェアの拡大を目指します。前年売上が大きく減少したレーザープリンターは長期化していた出荷調整が終了し増加に転じる見込みであり、インクジェットプリンターも大容量インクモデルのラインアップを完成させて販売台数を伸ばす計画です。

メディカルは、昨年発売した製品が一年を通して売上に寄与することに加え、課題となっていた米国の販売力強化により受注件数は増加しております。また、新しく設立したマーケティング会社のもとで医療機関や医師との関係強化を図っており、高まってきたキヤノンのプレゼンスを使い、海外での売上を伸ばしていきます。

なお、課題となっているメディカル事業の収益性改善は、今年よりキヤノンの全社組織としてメディカル事業革新委員会を立ち上げ、開発から生産、調達、物流、管理までの全てのオペレーションにおいて、キヤノンの持つリソース、ノウハウを制限を設けず投入し、収益体質の改善を図っていきます。この活動によって早期に2桁の利益率を達成し、BIG3に伍していける盤石な経営基盤を構築します。

# 2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2024年 見通し	2023年 実績	対前年
プリンティング	売上高	23,890	23,461	+1.8%
	営業利益	2,559	2,283	+12.1%
	(%)	(10.7%)	(9.7%)	
メディカル	売上高	5,820	5,538	+5.1%
	営業利益	460	316	+45.3%
	(%)	(7.9%)	(5.7%)	
イメージング	売上高	9,008	8,616	+4.5%
	営業利益	1,472	1,456	+1.1%
	(%)	(16.3%)	(16.9%)	
インダストリアル	売上高	3,830	3,147	+21.7%
	営業利益	723	586	+23.4%
	(%)	(18.9%)	(18.6%)	
その他及び全社	売上高	1,840	1,898	-3.1%
	営業利益	-864	-863	-
消去	売上高	-888	-850	-
	営業利益	0	-24	-
連結合計	売上高	43,500	41,810	+4.0%
	営業利益	4,350	3,754	+15.9%
	(%)	(10.0%)	(9.0%)	

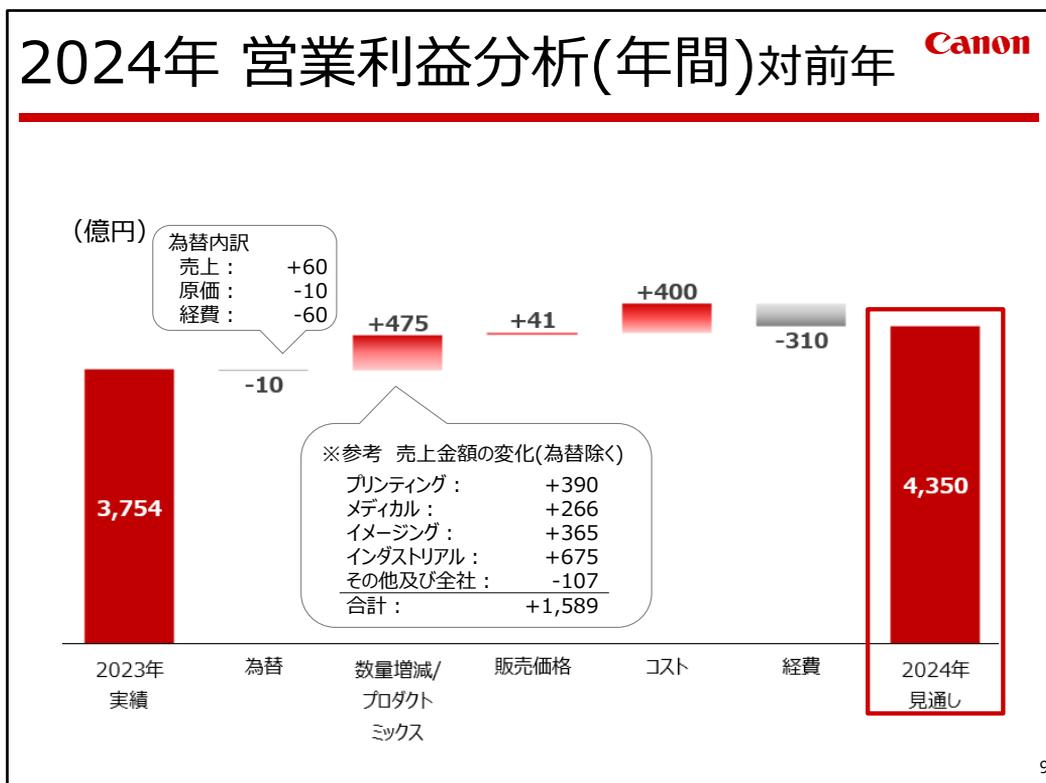
8-2

イメージングのカメラは、ラインアップ拡充をさらに進めながらミラーレスへのシフトを加速しプロダクトミックス改善により成長を目指し、ネットワークカメラは多様な製品ラインアップとソフトウェアで拡大する需要を確実に取り込み、今年も売上を伸ばします。

インダストリアルは、半導体露光装置は、パワーデバイスや生成AIに使われるGPUの先端パッケージング向け製品を中心に販売台数を247台まで大きく伸ばす見通しであり、売上・利益とも大幅な増加を見込んでいます。

# 2024年 営業利益分析(年間)対前年

Canon



4つのビジネスユニット全てで販売増を計画しており、数量増減/プロダクトミックスは475億円のプラスになる見通しです。

経費は今年も人件費増と売上増に伴い310億円増加しますが、部材や工場経費を中心に400億円のコストダウンを見込んでいます。

# 在庫の状況

- 部品発注削減効果と4Q拡販で減少に転じ、2021年末と同水準に
- 2024年は仕掛品削減で適正在庫である60日以下の水準を目指す

(金額：億円)

		2022年				2023年			
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
プリンティング	金額	3,247	3,536	4,081	3,668	3,725	3,875	3,776	3,126
	日数	58	60	67	56	57	62	60	47
メディカル	金額	1,205	1,294	1,377	1,283	1,363	1,431	1,509	1,259
	日数	89	100	103	85	88	102	107	77
イメージング	金額	1,171	1,266	1,436	1,376	1,636	1,733	1,846	1,684
	日数	63	64	65	56	69	77	77	68
インダストリアル	金額	1,178	1,338	1,374	1,240	1,330	1,400	1,428	1,329
	日数	131	166	152	124	154	187	170	136
その他及び全社	金額	531	547	571	516	534	542	580	571
合計	金額	<b>7,332</b>	<b>7,981</b>	<b>8,839</b>	<b>8,083</b>	<b>8,588</b>	<b>8,981</b>	<b>9,139</b>	<b>7,969</b>
	日数	<b>73</b>	<b>78</b>	<b>81</b>	<b>69</b>	<b>74</b>	<b>82</b>	<b>82</b>	<b>66</b>

10

9月末までの棚卸在庫は、逼迫に対応した部品・原材料の早期確保や、拡販のための商品在庫の積み増しに加え、円安による外貨建て資産の評価替えの影響で増加傾向にありました。第4四半期に入り部品・原材料の逼迫が緩和され、通常の発注に戻るとともに、商戦期を迎え4セグメント全てで売上を伸ばし商品在庫が大きく減少した結果、12月末の在庫は9月末より1,170億円減少し、回転日数は66日と、2021年末と同水準まで下がりました。

2024年は、仕掛品を通常の水準まで削減するとともに、拡販のために準備した商品在庫を計画通り販売につなげ、60日を下回る適正水準の達成を目指していきます。

# キャッシュフロー(年間)

■ 営業CFを増加させ、成長投資、株主還元拡充、借入金返済を実施

(億円)	2024年 見通し	2023年 実績	2022年 実績
純利益	3,050	2,645	2,440
償却費	2,400	2,387	2,265
その他	175	-520	-2,079
営業活動によるキャッシュフロー	5,625	4,512	2,626
設備投資	-2,400	-2,317	-1,833
その他	0	-437	25
投資活動によるキャッシュフロー	-2,400	-2,754	-1,808
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>3,225</b>	<b>1,758</b>	<b>818</b>
財務活動によるキャッシュフロー	-3,450	-1,567	-1,468
為替変動影響	-38	201	257
現預金の純増減額	-263	392	-393
<b>現預金の期末残高</b>	<b>3,750</b>	<b>4,013</b>	<b>3,621</b>
<b>手元回転月数(※)</b>	<b>1.0</b>	<b>1.1</b>	<b>1.0</b>

※ 2024年は年間売上高で算出。2023年および2022年は下期売上高で算出

11

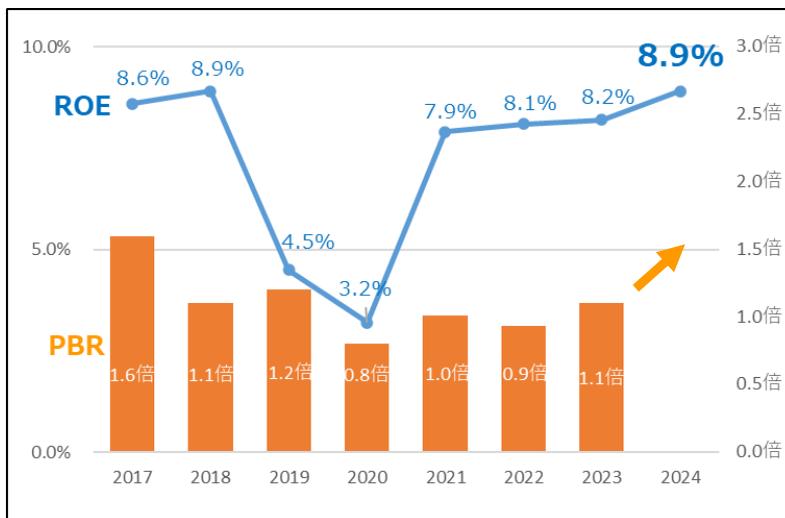
2023年は、営業キャッシュフローが、純利益の増加に加えて前年に増加した棚卸在庫が減少に転じたことで、2022年を大幅に上回る4,512億円になりました。

投資はCMOSセンサー新工場やメディカルの体外診断事業分野でのM&Aなど将来の成長に向けた投資を行ったため前年より1,000億円ほど多い2,754億円を使用しましたが、1,758億円のフリーキャッシュフローを創出し、20円の増配や合計1,000億円の自社株買いにあてました。

2024年については、4期連続の増益と、在庫水準の適正化によって、営業キャッシュフローは5,625億円を計画しています。今年も半導体露光装置の新工場建設を含む2,400億円の成長投資を行った上で3,225億円のフリーキャッシュフローの創出を目指します。

創出したキャッシュは、10円の増配や自社株買いなどの株主還元と、借入金の返済へ有効活用していきます。

- 収益性向上、資産の圧縮、負債の有効活用により、ROEを8.9%を目指す



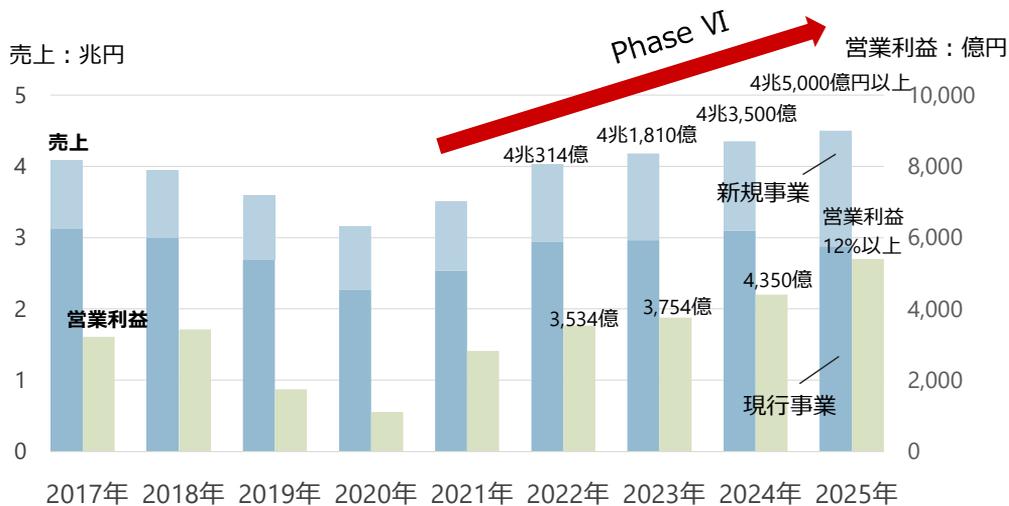
12

ROEについてはコロナ禍には3.2%まで落ち込みましたが、直近では8%台に回復しており、2023年は前年から0.1%改善し8.2%となりました。2024年はコストダウンと経費の最適化によって収益性を高めるとともに、生産拠点の集約等を通じた資産の圧縮と負債の有効活用を図ることによってROEを8.9%にまで高め、早期に2桁台に回復するよう努めます。

また、継続的にPBRを上げていくために、ROEの改善に加えてメディカル、インダストリアル、商業・産業印刷を中心とした新規事業を早期に拡大させ、株主の期待を上回る成長を目指します。

# グローバル優良企業グループ構想 Phase VI Canon

- 新規事業は2023年も売上を牽引し、売上構成比は28%まで上昇
- 4期連続の増収増益を果たし、2025年の業績目標達成に繋げる



13

2023年は市況悪化の影響を受けたものの、新規事業の伸びが牽引し、増収増益で着地しました。全社売上高に占める新規事業の構成比は28%と目標である30%に近づく水準まで上昇しており、事業ポートフォリオの改善は着実に進んでおります。

2024年も不安定な環境が続きますが、新規事業は成長加速と収益性の改善、現行事業はマーケットシェアの維持と経費構造の見直しによる事業基盤の強化により、4期連続増収増益を目指すとともに、「グローバル優良企業グループ構想Phase VI」最終年となる25年に向けて、業績目標達成の道筋をつけてまいります。

## 參考資料

## ■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	4Q			年間					年間		
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前が見通し	対前回	2024年 見通し	対前年	
プロダクション	1,192	1,080	+10.4%	4,016	3,624	+10.8%	3,970	+46	4,138	+3.0%	
オフィス	オフィス複合機	1,705	1,645	+3.6%	6,222	5,678	+9.6%	6,207	+15	6,275	+0.9%
	オフィスその他	969	872	+11.1%	3,641	3,211	+13.4%	3,637	+4	3,693	+1.4%
	2,674	2,517	+6.2%	9,863	8,889	+11.0%	9,844	+19	9,968	+1.1%	
プロシューマー	LP	1,624	1,733	-6.3%	6,089	6,512	-6.5%	6,000	+89	6,269	+3.0%
	インクジェット	936	1,072	-12.7%	3,493	3,701	-5.6%	3,614	-121	3,515	+0.6%
	2,560	2,805	-8.7%	9,582	10,213	-6.2%	9,614	-32	9,784	+2.1%	
売上高計	6,426	6,402	+0.4%	23,461	22,726	+3.2%	23,428	+33	23,890	+1.8%	
営業利益	724	519	+39.5%	2,283	2,124	+7.5%	2,414	-131	2,559	+12.1%	
%	11.3%	8.1%		9.7%	9.3%		10.3%		10.7%		

## ■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
プロダクション	+3.6%	+3.1%	+2.7%
オフィス	+1.9%	+5.9%	+0.7%
プロシューマー	-11.8%	-9.8%	+2.6%
合計	-3.8%	-1.6%	+1.8%

## ■ 対前年台数伸び率

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
オフィス複合機	-11%	+3%	+1%
LP	-34%	-26%	+13%
インクジェット	-14%	-11%	+2%

# プリンティング ハード/ノンハード売上

## ■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2024年	2023年		2022年	
			年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
プロダクション	円貨	ハード	+7%	+13%	+11%	+29%	+30%
		ノンハード	+1%	+8%	+11%	+26%	+23%
	LC	ハード	+7%	+7%	+3%	+12%	+15%
		ノンハード	+1%	+2%	+3%	+9%	+10%
オフィス複合機	円貨	ハード	+1%	+3%	+12%	+50%	+30%
		ノンハード	0%	+4%	+7%	+13%	+10%
	LC	ハード	0%	-2%	+5%	+31%	+17%
		ノンハード	0%	-1%	+2%	+2%	+2%
LP	円貨	ハード	+7%	-30%	-10%	+33%	+34%
		ノンハード	+1%	+13%	-4%	+8%	+6%
	LC	ハード	+8%	-33%	-15%	+16%	+19%
		ノンハード	+2%	+10%	-6%	-1%	-2%
インクジェット	円貨	ハード	+1%	-22%	-14%	+43%	+34%
		ノンハード	+1%	-4%	+2%	+11%	-7%
	LC	ハード	+1%	-26%	-18%	+27%	+21%
		ノンハード	0%	-8%	-4%	0%	-15%

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2023年の伸び率は前年を組み替えた前提で表示しています。

## ■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	4Q			年間					年間	
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回	2024年 見通し	対前年
売上高計	1,642	1,508	+8.9%	5,538	5,133	+7.9%	5,618	-80	5,820	+5.1%
営業利益 %	137 8.4%	100 6.6%	+37.8%	316 5.7%	310 6.0%	+2.1%	368 6.6%	-52	460 7.9%	+45.3%

## ■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
合計	+4.9%	+4.0%	+4.8%

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	4Q			年間					年間	
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回	2024年 見通し	対前年
カメラ	1,540	1,492	+3.2%	5,446	5,097	+6.8%	5,515	-69	5,650	+3.7%
ネットワークカメラ他	753	932	-19.3%	3,170	2,938	+7.9%	3,495	-325	3,358	+5.9%
売上高計	2,293	2,424	-5.4%	8,616	8,035	+7.2%	9,010	-394	9,008	+4.5%
営業利益	337	443	-23.9%	1,456	1,266	+15.0%	1,562	-106	1,472	+1.1%
%	14.7%	18.3%		16.9%	15.8%		17.3%		16.3%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

## ■カメラ台数/対前年伸び率

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
カメラ	-2.1%	+0.9%	+3.8%
ネットワークカメラ他	-24.2%	+0.3%	+5.1%
合計	-10.6%	+0.7%	+4.2%

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
台数 (万台)	80	288	280
伸び率	-6%	+1%	-3%

## ■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	4Q			年間					年間	
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回	2024年 見通し	対前年
光学機器	689	756	-8.9%	2,126	2,404	-11.6%	2,150	-24	2,528	+18.9%
産業機器	301	199	+51.3%	1,021	888	+15.0%	1,002	+19	1,302	+27.5%
売上高計	990	955	+3.7%	3,147	3,292	-4.4%	3,152	-5	3,830	+21.7%
営業利益	233	134	+74.5%	586	580	+1.0%	594	-8	723	+23.4%
%	23.6%	14.0%		18.6%	17.6%		18.8%		18.9%	

## ■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年		2024年
	4Q	年間	見通し
光学機器	-10.6%	-12.7%	+18.7%
産業機器	+49.9%	+14.3%	+27.2%
合計	+2.0%	-5.4%	+21.4%

## ■ 露光装置台数

		2023年		2024年
		4Q	年間	見通し
半導体	KrF	17	56	63
	i線	49	131	184
		66	187	247
FPD		7	25	26

# 2023年 営業利益分析(年間)対前回

